

港工同窓会

ニュース

創刊号 平成14年4月20日発行 不定期発行 発行責任者 前田武男

ご挨拶

平成元年に、本会を再興してから、14年が経過しました。この間会員の皆様には、毎年6月の定期総会及び懇親会はじめ、会務遂行に多大の協力を戴き役員一同を代表して感謝申し上げます。

母校が、麻布工業、澁谷工業、高輪工業の3校統合により港区愛宕の地で都立港工業高等学校として卒業生を輩出したときに、前身校の先輩の伝統を引き継ぐ形で同窓会が発会し“港工同窓会”と呼称することも決まりました。以来、会員の懇親と母校の教育活動に協力することを骨子に活動しました。その後諸事情から、定期総会を開催することも不可能な時期がしばらくありましたが、平成元年に再興の運びになり、不肖私が会長を拝命いたしました。

以後、役員一丸となって、会員名簿の充実をはかり、定期総会の開催と、新会員に対し名簿を発行し、現役の援助活動として文化祭行事案内を若手会員に送付して参りました。又、先の母校創立50周年記念行事には会として立派に協力することも出来ました。

さて、母校、都立港工業高等学校が、平成16年3月に廃校になることは既に皆さんにお知らせしました。先の統廃合とは事情が異なり、新設校に伝統を如何に伝えるか困難が多いと考えております。会の運営にも改革を要

港工同窓会 会長 前田武男

する時が参りました。会員の皆様の絶大なるご支援ご協力を切に懇願する次第です。

◇平成14年度定期総会

今年度の定期総会は、下記のとおり開催いたします。懐かしい母校を会場とする総会も来年度までとなります。どうぞ校友お誘い合わせの上奮ってご参加されるようご案内申し上げます。

記

日時 平成14年6月8日(土) 13時より
(幹事の方は12時にお集まり下さい)
場所 総会 港高校 1階食堂 13:00~
懇親会 芝パークホテル 14:30~
会費 10,000円(新会員の方は無料です)
総会の内容 事業・決算報告、新役員の承認
事業計画・予算案の承認
その他

※準備の都合上、5月末日までに、同封はがきに必要事項を記入の上ご返送ください。

—— 総会の現状 ——

平成13年度の総会では、約5,000通の案内状を発送し、1,500通近い返信をいただきました。総会への参加者は121名でした。

今、予算の中で通信費が大きな比率になっているのです。

皆さん、是非とも参加して下さい。

◎会則の改定決まる

諸般の事情から、従来の会則による会の運営が困難になり、会則を改定する必要が生じ、理事会において協議検討を重ねた結果先の平成13年度総会に於いて提案し、反対なく可決されました。

問題点は、会則第6章「会計及び基本財産」第14条の会費に関する条項で

1. 入会金を入学時に徴収することが、手続き上不可能になっている。
2. 終身会費として、卒業時に一括徴収しなければならない。
3. 少子化にともない、卒業生（入会者）の数が年々減少し、会費収入が激減した。
4. 平成16年に母校が廃校になれば、新会員の会費は絶える。新設校の卒業生に、会の伝統を引き継いで行くよう働きかけて、実現してもさらに3年後になる。

以上の理由から、次のように改定案を提出し承認された。

【改定案】

第6章 会計及び基本財産

第14条 入会金及び会費として5,000円を卒業時に納入する。

二 卒業後5年を経過した会員は賛助金として年額2,000円を納入する。

三 総会または行事等に際し臨時会費を徴収することができる。

第8章 付則

第30条 本則は平成14年4月1日より一部を改定し効力を発する。

—— 会費納入のお願い ——

平成13年6月9日の会則改定にともない、平成9年3月以前の卒業生にご協力をお願いすることになり、振替用紙を同封いたしました。

先の総会を欠席された方にとっては、突然のこととなり恐縮ですが、予算の関係でお知らせが遅れました。よろしくご協力のほどお願いいたします。尚、送金手数料は会が負担することになっております。

◆定時制閉校式の準備

さらば定時制高校

定時制は今年で閉校になる

—— 全日制より1年早く ——

港工の前身は、明治39年（1906）創立の東京市立工業補習夜間学校である。20世紀の大戦前後をはさんで、昼間部の設置や麻布工、渋谷工の統廃合をすすめ、この1世紀間にわたって幾多の人材を世に送り出し、伝統ある名門校の名を築いてきたのである。卒業生は前身校を含め2万人を越すが、平成13年度の学校要覧によれば現・港工高時代は、全日制9196人、定時制3817人計13013人の若き仲間たちが巣立っている。定時制も、その名誉ある一翼を担ってきたのである。

しかしながら、昨今の社会の激変によって名門工高といえども、時代の流れに沿う変革に迫られ、定時制は早くも募集停止となり、ついに今年度で閉校と決まった訳である。

○お別れ会（仮称）が行われる

— 想いであらたに是非、参加を！ —

今や、むかし語りとなった苦学の友、万事欠乏の時代を乗り越えた仲間たち、平和と共に仲間を求めてきた若者たち。そして、定時制への評価の変わりようさまざまな時代を肯定し今、偲ばれることはそこには、港定時代が「心の糧」となった大いなる仲間がいるということであろう。

“みんな ちがって、みんな いい”
ちょうど「みすずの詩」のようだ。

閉校式のことばの響きには感無量なものが

同窓会・回想と述懐 (その1)

高橋光春

終戦の翌年、21年4月に高輪、麻布、渋谷の各工業学校が統合になり2年後、学制改革により港工業高等学校が誕生した。

それに伴って、同窓会も一本化する運びになった。当時3校のうち同窓会組織があったのは、高輪工業の第1本科、第2本科と麻布工業の第1本科のみで、渋谷工業は前身が商業学校で戦時中に軍国教育の一環として工業学校に転換された学校なので工業としての卒業生はなく、麻布工業の第2本科同様に同窓会の組織は存在していなかった。

発起人として、高輪第2本科から、久保田鉦雄氏(1期機械)、佐藤泰久氏(3期機械)、高輪第1本科から松葉義久氏(1期機械)、小宮甲子太郎氏(1期機械)また麻布第1本科から、海内良吉氏(1期機械)、山下陽康氏(1期電気)、事務局担当として、曾布川亘氏(高輪2本6期機械)の方々が統合の為ご尽力下さった。

何回か会合が重ねられ、規約案が作られ、毎年の総会日を6月第1日曜日に開催することなども決まり、第1回の総会で久保田鉦雄氏を初代会長に選び「港工同窓会」は発足の運びとなりました。

さて、総会は旧校舎の玄関横の講堂兼体操場で生徒用の机、椅子を運んで会場設営をし、

総会終了の翌日始業前に在校生諸君に教室へ運んでもらう等、在校生諸君に大変ご苦勞を煩わしました。

また、会場の机、椅子の配置は幹事で行い、当時は、イベント屋もないので総会の飲み物やおつまみ等は新橋の酒屋に総会場まで運んでもらい、販売までも依頼するといった調子でした。

総会は、お決まりの議事終了後にアトラクションとしてプロの楽団を頼んでジャズ演奏をやったこともありましたが、又、福引抽選会をやったりしたものでした。福引の景品は生活雑貨が中心で銀座のデパートなどに調達しにいったものでした。

総会案内通知は、学徒援護会に学生のアルバイトを依頼して葉書の宛名書きを頼んだり、ついには在校生に頼んで経費節減を図ったものでした。

昭和41年母校が20周年を迎えるにあたり、クラブ活動の部室、生徒用のロッカーや始業終業のチャイムなどの設置が記念事業として計画され、また、虎ノ門の国立教育会館で記念式典が開催されました。同窓会も協賛金として金20万円を拠出しました。

(次号へ続く)

★定時制閉校式典の予定★

日程 平成15年3月8日(土)
 場所 第55回卒業式 於 本校
 定時制閉校式 於 本校
 お別れ会 於 メルパルク・芝公園
 *同窓会も協力します
 案内状は、平成元年度の再興同窓会総会以降、総会に出席された定時制卒の方全員に送る予定。その他の方もぜひご参加を!

…母校秋の文化祭のご案内…

在校生諸君の活動の成果をご高覧下さるよう、ご案内申し上げます。
 愛宕祭(定時制) 10月31日(木)
 ~11月1日(金)
 港工祭(全日制) 11月9日(土)
 ~10日(日)
 ※同窓会ブースを用意します、是非ともお立ち寄り下さい。

◎新設校について

母校は平成16年に「単位制工業高校」として生まれ変わる。

昨秋、11月9日の新聞紙上に発表された、都立高校の募集記事を見て「港工業高校の名が見当たらない!」と、さびしい気持ちになった同級生は少なくなかったと思う。今回の入試から募集停止になったのである。

先に発表された、都立高校改革推進計画によって母校港工業全日制と定時制は、羽田高定時制、鮫洲工業定時制、羽田工業定時制と共に発展的に統合され、全定併置の単位制工業高校として、平成16年に生まれ変わるための準備に入ったのである。

新設校は、平成14年1月現在まだ正式に名前は決まっていない。場所は大田区東六郷2丁目18番2号(京浜急行雑色駅下車)の第一製パンの工場跡地であり、第一京浜に面している。

学校の規模は、全日制18学級、定時制12学級。設置学科は、廃校になる各学校の実績と、全体のバランスを考えて

全日制	機械工学科 自動車工学科 電気工学科 プロダクトデザイン科
定時制	普通科 生産工学科

となる。

平成14年度に校舎の建設が開始され、平成16年3月に完成、4月開校の予定。

構造は、鉄筋コンクリート造5階建てで、校内に同窓会の場所(共用スペース)も用意されるべく設計に反映される見込みです。

☆同窓会会務の連絡先について

校内理事(OBの先生)不在のため、名簿の質問、住所変更等のご連絡は、下記へお願いします。

記

〒278-0036 千葉県野田市中野台鹿島町23-7
株クリーンジャパン内

松岡信之

(会計理事 港16期S39, A卒)

TEL 04-7125-6808 FAX 04-7125-6851

◇母校教職員の異動

平成14年4月

転出(全・定)	和泉 勲(校長・小金井工)
(全日制)	高橋智朗(数学・富士高)
(")	横塚聖史(保体・松原高)
(")	佐藤徹治(英語・竹早高)
(")	宇佐美誠(機械・足立工)
(")	飯塚明良(機械・科学技術高)
(")	宮田和穂(電子・墨田工)
(")	国分輝雄(自動車・世田谷工)
(")	押尾良衛(機械・北豊島高)
(事務)	小池洋二(係長・東島根中)
(")	森谷 顕(主事・八潮高)
(技能)	土佐 清(主事・中野工)
退職(定時制)	大田邦弘(物理)
(")	大沢 瑛(電気)
転入(全・定)	小山 実(校長・総技センター)
(事務)	瀬戸山喜陽子(主任・矢口養護)
(事務)	西山和久(主事・北園高)
(技能)	市川誠司(主事・東高)

編 集 後 記

賛助会費を納入戴くための、振込用紙送付用封書の活用から会報を作ることになり、とりあえず形になりました。ご寄稿戴いた高橋先生をはじめ役員の方々のご協力に感謝いたします。

今後は会員皆様の意向が、賛助会費納入へ反映されるのであれば、ページ数、内容とも、充実・拡大されることとなります。ご賛同をお願いする次第です。

母校が消えることになり、同窓会の存亡をかけて、住所判明者全員への総会通知発送、ホテル総会開催、規約改定、文化祭参加等々前田会長指揮のもと、微力ながら出来る限りの対策を実施しています。本紙発行が継続されることを祈ります。

(松岡)